

# すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ?

T I M E S ' 1 7

平成29年10月18日発行

発行元:塾熟出版(事務局)

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317 -6621 FAX 3317 -6620

第7号

10月4日  
受講生 26名



ゲスト講師 国立国語研究所 石黒圭氏

「人称と親族呼称を考えるー社会言語学の考え方ー」

まずは、国立国語研究所の組織について。皆さんは、今回の講座を受けるまで、国立国語研究所という組織をご存知だったでしょうか。日本語の研究だけでなく、多言語とも比較しながら、ことばのルールや言語のデータベースを作成したりと、幅広く研究を行なっている組織です。

また、以前は言語学と言えば、書き言葉が中心でしたが、今は話し言葉に関しても対象に「地道に丁寧に日本語を見ていく組織」として活動しています。

## ○人称・親族呼称・社会言語学とは何か○

人称は1人称、2人称の呼び方があり、親族呼称とは、家族間の呼び方となります。

社会言語学とは、音声や文字を記号と考えています。そして言葉は社会の産物と考え、話し手が使用している言葉から1つの社会が見え隠れすると考えます。

## ○人の成長とともに自称詞はどう変わるか○

幼稚園→小学生→中学生→高校・大学→社会人

人は成長していくにつれて、男女それぞれ自分を言い表す言葉が変わって

きますが、男性の方が成長とともに自称詞が社会的影響を受けて変化しやすいようです。

その理由は、友達からからかわれたり、大学生が就活を始めると“ぼく”とか“おれ”とかではなく“わたし”に変化していくように、環境に合わせていくようになっているからです。



## ◇ワークショップ◇

「1人称「自分」を使う人はどんな心理で使うのか？」← 各班に分かれて意見を出し合う。

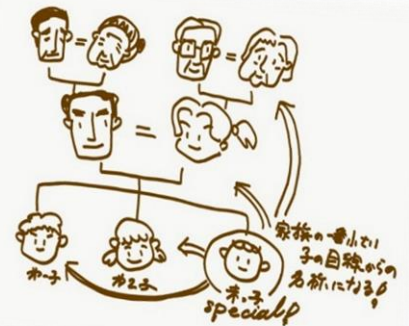
- ・ 体育会系 → 部活の上下関係
- ・ 階級社会 → 指揮系統の厳しい社会（消防士、自衛隊など）、会議等で控えめに使用
- ・ 他者との線引き → 自己表現、一線を画す時

☆受講生からの意見：個性、壁を作りたい時、硬派が使う、  
謙譲語として使用、高倉健のイメージなど



## ○家族内呼称はどう決まっているか？○

家族間の呼び方は、目下の者から決まっています。目下の者は目上の者を名前で呼ぶよりは、親族呼称を使用しますが、目上の者は目下の者を、親族呼称で呼ぶことはありません。  
※ただ、現代では親子間、兄弟間でも、親族呼称で呼ぶより、固有名詞で呼び合うことが増えてきているようです。



## ○家族呼称の家族外への転用○

- 「おじさん/おばさん」→ 中年世代一般
- 「おじいちゃん/おばあちゃん」→ 高齢者世代一般
- 「おにいちゃん/おねえちゃん」→ 飲み屋、スナックの男の子・女の子
- 「ご主人/奥様」→ 中高年世代一般

(イラスト：受講生 平井さん作成)

さて、見ず知らずの人から、上記の呼称で突然呼ばれたら、私たちはどんな風を感じるでしょうか。親しさを重視する人は、親族呼称を他人にも使用するかもしれませんし、敬意を重視する人は、その親しさに不快感を感じるかもしれません。使う言葉によってその個人のアイデンティティーや人間関係に対する考え方が見え隠れしてきます。年齢を感じさせることばは避けるような文化があるのかもしれません。関係性を対等にするために、固有名詞を使う人が多くなってきたのかもしれません。

今回は、「三省堂国語辞典」編集委員の飯間浩明氏をお迎えして、言葉への感度をさらにあげていくとともに、自分が使っている言葉から、自分リテラシーを深めていきましょう！

○すぎなみ大人"熟"してる?の発行にあたって○ この新聞は事務局スタッフの視点と記録に基づいて作成しております。